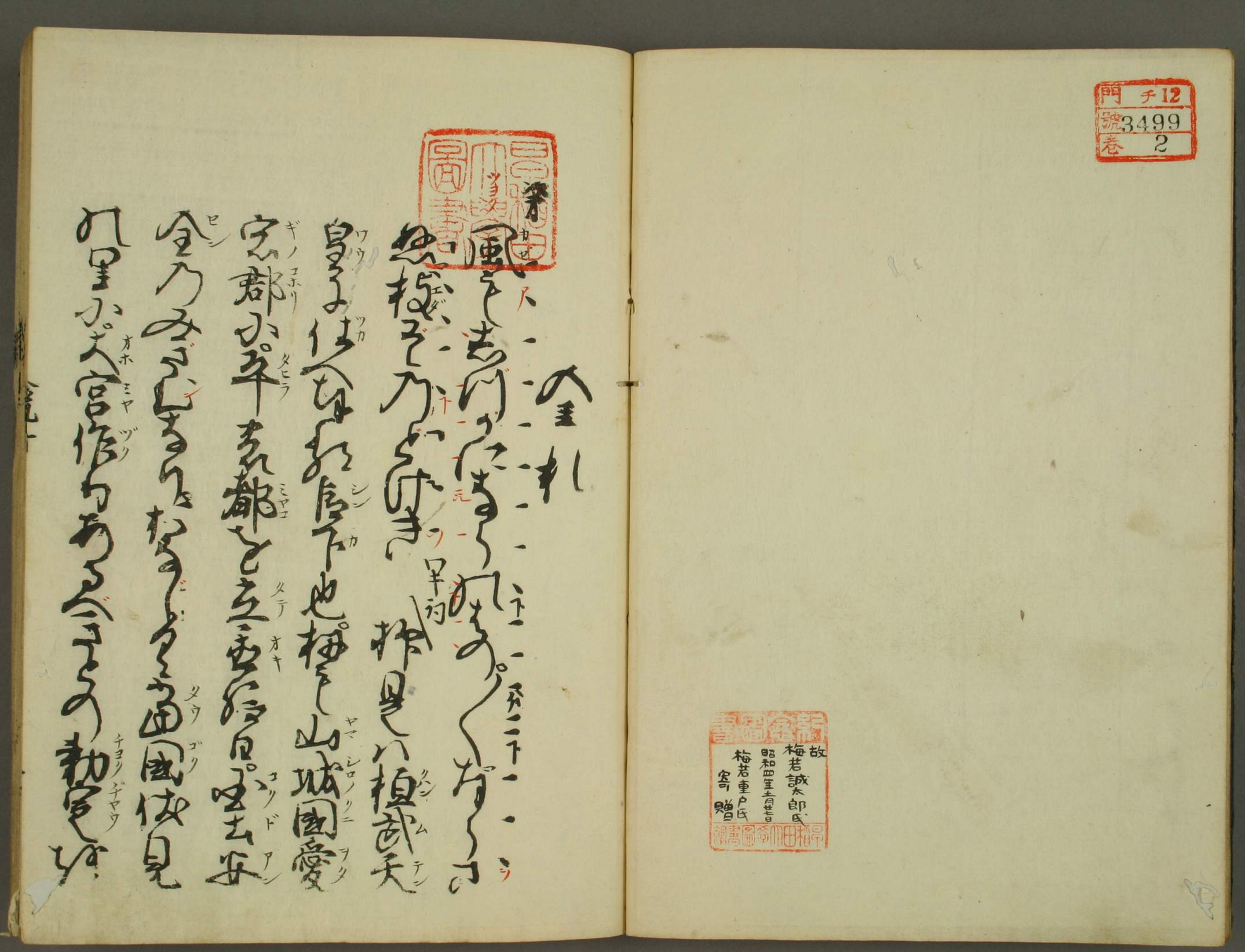
俊成卿
知章
岩船
大江山
金札
梅若法師
孝次郎
特別
チ12
3643
12(2)

門 チ12
號 3499
卷 2

故
梅若誠太郎氏
昭和四年十月寄贈
梅若重戸氏
寄贈

宮内省圖書寮



豪り催し御見よ下向給 されし久
いかの神代より天地開き世の起り
天乃二鉾の直なるやどりをしるしれ
神ながら鳴乃國をつかさどりはじめ
世まさまや大君の御影のときや代と
おやあまねふよ萬乃民まもる神
ころうくれぐとなくわらぬ都路の尊

あくまきの菅原や伏見の里の宮作りに
咲ほ山乃陰なりし代をかの玉殿ぞ
ぱをかへりやみすく鳥もく 貴
乃御ちかひや圓を名高き雲乃垣霞
の行をし玉かぎる時代よりの事よと
命うれしき長生の天晴老の思出や
平間
不思儀やかし玉床乃人と多き事なる

[illegible]宜祢御[illegible]
[illegible]身ハ[illegible]と名乗の人そ
仲[illegible]國あ[illegible]祢乃浦[illegible]
社[illegible]見乃大宮[illegible]地
[illegible]
[illegible]
乃あ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せいの人縄まるの泰山の山まては氷兵
岩石できりくる風をはらはれ
稚の木ぐく　船をきつくまれやうやう
木の間よなをしたまのまゝ　うれしさのき
たのきられ木　君におもひとゆうやうかや
ちらせの松が手る風　名残なる凡木
の枝ある花いなすと榊葉おまし八木の

霜に木蔭きりかきる風し　袁か
まちや天すゆもの全札の降ちりてゐ射金色
の守もは本おもうよきよ給へ　宮そ
天より全札の降るちとくりけるや厳
上読てみきれ行きにぞ松の国まで道も如法
身は玉垣のゆよまとめるや御殿門の流き
詑きし守らしためし。如見て住まする心

いふ給ふは　梅は伏見でい何とぞ大し
見えてはそ　おもと思やか見乃
宮居流御社乃事なれど　あく
南や伏見こは幽やらや日本は名高き
伊弉諾伊弉冊尊天乃岩戸の
露し所で見出し　主とし国なきれ
伏見は是又林津鳴乃伝なりて、

入るめ事なり流石に伏見里にも
て斗り見ても妻ごろもうつろぐもね居り
乃中まさも入玉乃しましと御門の書
まろやかにちときまちりがすこし處なき色
のぼりし　是も伊勢大神宮は御つ
かろしゆんて大津みも夜のかしぢ跡
きもし秋をもおもふと思ふなくからかなく

宮居を作り當山神と
頻伽の老もうの虚空に踊り空と也
雨とゆやいうらめうらめうらめよ
きもく　上有
楽ひきてひうう
うの森の神うの縁くもの　剛　守ぐ
げ国もれいもと濃
頭まり　上光　右上　ハ
ごごおっぱ

上有　上有

沖代も守りの
きもく　上有　右上　あくとぐやく
扉をしへまのこの神のうもう
ぐ　上　魚をはうう
あくよんうや君もれ　百ろ
代ぎぐもうなまや　悪魔降ぐ
乃ぎの月弓　地　かくよ乃ごよへ

りしかは あらはれ顕はれ 云
けし そろこ上月 其神瀧をおさめたまひて
も非力悪魔をはらひあそぶる
そもそも金胎両部かみなり
御おさまれる國まもれば げにくもや
君ゐる船は水のほかをゆらさぬ
まるかちましして東夷西戎南蛮北狄

乃おしおそれいでてとらへし剱を納
め君をもとのほか民を守りし御ぐし
名し宮みことにも給へてかおかりしに
ろしめ宝慶さしおそをもすすめあ
かはらぬ御代ぞめにきまれ

大江山

秋風の音はたぐへて西ノ門や雲の入ル

さらし大江山　松の木の頼そと

いはるゝも梅もしら丹波国奥大江山

異本の事ばかりあるをあらをつ

ぶさに保元よりはじめやとま

さ申やうに飛大乱をそ人倫を

[illegible]行廊とさうしよせ
[illegible]ぬさて　ねなつ[illegible]ぬ
[illegible]ら　甲[illegible]
[illegible]出[illegible]
[illegible]　胄かあ[illegible]
[illegible]蔭[illegible]や　[illegible]
[illegible]綱[illegible]
[illegible]行[illegible]
[illegible]
[illegible]頼[illegible]保正
[illegible]綱公時　[illegible]

[illegible]武者　[illegible]五十
[illegible]月入
[illegible]行[illegible]西[illegible]や
[illegible]
[illegible]夫君[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃ち座なう童子とうどいの家を
山伏らの泊りて一夜のお宿とあるを
聞きしに行と山伏達乃一夜のお宿
かしやうらうや桓武天皇より御請
申し拵し叡山と世うの出家よハ平
とりくとかくて契約をなり中
門乃ほとの廊を留めとくいたく
僧達行くらいつる人所面り作へば
し隠家へハ出むきそ作
きハ流浪長山乃宮俗うしが驚
を山陰道より道を踏まらし前
ほを去たもうの廊よじ抜れた
やと行らしくて祝言申ハ俗ろを
周天童子と作ハ行と申たら謂ら

候ぞ

シテ〽我名をば酒天童子といふ事ハ
明暮酒を数寄たるによりけんぞく共
に酒天童子とよばれさぶらへば
人のなさけをうけつきせぬ酒ほど面白
きものはあらじ客僧達もきこしめし候へ

ワキ〽仰のごとく程よ一門下されしよ比叡山
とていづくのはうより御居住あるぞ

シテ〽我比叡山を重代のすみかとし年
月を送りしに大師坊といひしえせ人
嶺には根本中堂をたて麓に七社
の霊神をいはひし無念さに一夜に三
十余丈の楠となりて奇瑞を見せし
所に大師坊一首の哥によつて阿耨多羅
三藐三菩提の仏たちわが立杣に

冥加あらじと有しハ仏たりとも大師
坊よりつらハされ共よくよく案じ候へバ
かうかうとして重代の比叡の御山を
出ありワキ上セル 然ハ比叡山を御出有て其
まづ爰に御座有るか シテ詞 いや行くゑも
定めなきこゝに霞まぎれ雲まの里
ワキ上歌 さそ久方のあまさかる鄙の都や遠

上セル
夷中 シテ詞 御身の故郷と頼みしも
みな住処也 ワキ上セル 梅ハ稍も天下たりとも
かゝる日の本のためしさな シテ 我等の道
入り行脚して ワキ あるひハ高山
伯耆の大山を シテ 白山立山富士の御嶽
うハ空の宮めぐりの雲の ワキ 雲の通ひ路
踏分り登く シテ詞 拙し輪廻にまよふとも

[illegible]

籠居くの客僧（忍びくの住居隠居して有り）あらかたに面白

[illegible]

[illegible]

一筋の頼みで一樹の陰一河の流

きをぶかく意悲の行

[illegible]

出家のつとめ童子をかどかども

[illegible]

給へ[illegible]一周二山王とたつく

[illegible]

[illegible]客僧[illegible]童子の[illegible]

[illegible]

てあるとせさをたつまる陸奥の安

遠原乃塚より
き〻
大江山
野乃道
たゞゝゝ乃海
しこ
酒
のまよ
秋乃山
草結

具する友と思ひをなしたまへば
海山も見よ分くるぞありがたき
てつれひる山越えてめぐる雲井の
たびのさいおちしべかり何の咲も衰よ見えるかも
や見ちいなろくとだでういたなまから雲
捕兼て某まで日よりの思のまゝ
入荒海の末もしもしゆかしくて歩の

かくてよなよなく頼光もてこはしありよ
夜更けゆく月の眺めも闇き鬼が城鉄の戸
ひらと押し開き見れば鬼神や旅
まくらに人のかたちをもちとつかれ
たけ二丈のすがたなくして鬼神の枕
猛きいたてなくいはひの行方を
ちなきとの乱れて給へ

[illegible]命は君のまめよい神國氏
社南無や播山王權現ろうか
[illegible]と頼え保正綱公時りと
[illegible]をひとりむやをひと
うくまどろうたら男のうへう
[illegible]ごうのうぎ稲妻震
動あべしうしテ上播磨ごよ宮備寺

[illegible]と云つて鬼作よ横道
[illegible]内
[illegible]鬼神よ横道まりと
中くうつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]土[illegible]て[illegible]も[illegible]ぬ[illegible]大君の[illegible]
いぢくう[illegible]乃宿り[illegible]
[illegible]せめうや貴よ[illegible]
きけろうて切[illegible]かも第山行草
[illegible]震動して[illegible]
[illegible]だ日[illegible]天津[illegible]照うや
きくざめ[illegible]

二刀三刀切りつけしかば忽ち
力よわりやとぞ見えつる鬼
神を押へて首うちおとし
て太刀をぬきかけてかゝるをつらぬき
大江の山を又踏分けて都へとて
こそ帰りけれ

岩船

ワキ 実治まれる四方の國々関の戸
さゝで通はん 抑是は當今に仕へ
奉る臣下也扨も我君賢王にまし
ますにより吹風枝をならさぬ民と
さかへ誠に目出度御代なるにより
去ば摂州住吉の浦に於て濱の市

とうてさまを唐の寶を賣とるへ
き宜旨を經て人々清の出住吉
の浦より向ふ仕り何事も心に叶
ひ時の人々くつろぎあるや日うら
雲間豊の海なる妹達潮の浪を苦
あきの四の海世の海唐土も狩りあり紀
ぶりきの道雲来寄る濱寺の浦と

墨よきりく　松風も長閑なるや
住吉の市雲ちまるゆもりく　遊
墨小野の草塚もりく居のめくこる
ぶりもりもり　丈多浦十里の外を
きたれ宮八所を住吉の神と居と
陽てあきば紅ひそめるこりか
きのくしきやとのあやらぶ宮

法華を唱へ奉りて雲の上へ
千世もちぎりを君の代に
いつくも同日の表り見めぐり
そ者うきいさく市の塩の
月面白き松の風 浮世絵師 塩干
よ到るふるまくそぐく待えを
思ふ世代はあひむの物語ある

時しも生ぶ豊うあるう
ト、ニ八ル
を行ふと云ん煙漂ものあまを
ろこを隔てあきの寶の市の出
よたうの市よ 年内 天明年
市人あきう 中ふ昼ある者
とうくまきの唐人 声を
大和河ぞ文きんをまへて

持て
さんのうの代そとうまく
さりて又見あるむい私より拾ふる寶
あれたれ[illegible]より目出度代あるかい
竜女う寶珠に思ひとゝへ見ハ君
より拾ふ　有難しく支治まる
代の主るよべ賢人を山よりして

聖人を君よりといつり給ひ
ハ仏あれハ寶を拾ふ
妻妾同戸相ひ　あらまりと
こゝろ唐ものはつむとても寶
珠の外よ云ふ[illegible]ぶきを素母
乃浦去ぬ[illegible]から思石塊　意
[illegible]
云とゝと少ゆるべ[illegible]

如意寶珠を秘蔵
文殊賢王の代
天竺
天地をうごかす
現世
宝
横ぎれぬ国をつくりあらため
さて四方の海
唐土
毎年西の海
書き

原の波をうつ
神を守りの道
神と君といひあひ
住吉の神
宝
幸
住吉の濱
市の賑
四方
人
住吉の濱
市寶の

数とうぶとうや雲の底岩一時の
千金をなげうちてもとへかしぼ
者の物うあるひあり金銀珠
玉のとうり千顆万顆の玉衣
浦の津守の宮柱立ち市やう物
うたをよ三つうきをつくうそきの
見と志ら綿あや衣ぬと軟ま

夕月の影よ向ふや浅路ふ鈴鳴ら
殊いちめうちく雲のひまあ拾ふ
角よりうち生吉の岩ふり
吹いちうくふる松吹風ハせりくと
ちうぶりめとかうん長四の絃
の音ぶとめうこうぶ芝やうのはと戸
ぬぶきよいうと海さ面白の浦去

きゝきや又岩舟のうるの宮月の
あらちよ高くへしぐ毎とて人ゝよ
ろゝと岩舟のようるこぶ方いるを
人屋らん　宮くくいらも高らし天
も納受法見城の寶を宮ようる
さんとて天岩盤船をの波長
宮ようゝへよし　とこいるゝゝうむ

へうい其岩舟を漕ようゝしあ其方さく
めい秋そうゝとしうきる天の岩舟
書ゝてそ秋津嶋孫ハ宮殿住吉
の雲のゝんちうの宮岩と九ゝ
矢よきうくく　久ゝの天のさく
ゝ岩舟をゝあ神代の幾久し
秋ハ堤下界ゝきゝ神ゝうや

まひ君と子孫の竜神と
あひの神代の
又ハ海の代より出て寶の船を
舟借し
舟岩舟寶を
と棹てえいやえいや
あまのはやめの波の敷てい

さうの柏子ぞ
ト
そめくり過りて住吉の
ぬ
ぬよりえいさえいさえいさ
おもやうの
くる浪のうんでハ大竜王の海上
よ
行し舟入
くりうまれ堀ひうを波の

てぶつ居をめぐらし住吉の岸に
寶の山を一しきおろし軒を軒
万の物産ちやうあびせもやもやの
どく金銀珠玉はいはりうらてぶ
つどくの清守の浦ぶ居を
守りの神ハふ世ちぐちぐ海代
とぞちりよきうが

知章

武蔵の国のちぐぐかりね
猿ヶ出ヶ関ヶ明石の西国方うりゆ
たら傳ふてハ武蔵都をみぐぐ行ま
ぶくう思ひ立宮古一見と心ひ仕
猿家ハ重ノ塩路をちぐぐ
おもひ出ひと行ひ波の雪をし多ま

奥津船こかれて浮世の道[illegible]て行く
[illegible]海きはや浦[illegible]関[illegible]遠く
[illegible]梅も我都の[illegible]
[illegible]磯辺[illegible]
新しき卒都婆を立てられたり[illegible]
人の[illegible]二年の追善と思しくて
要文を書き[illegible]物故平の知章

と書かれたり。知章とは平家の御一門
の中[illegible]
[illegible]痛はしや[illegible]
[illegible]を[illegible]是は[illegible]
[illegible]卒都婆を[illegible]
[illegible]平の知章[illegible]
御一門の[illegible]御[illegible]

痛うく思ひ一編の念佛を唱へ
て人間の苦しみを救ひぬ
去る程に此聖の国の人々まち
相応の二男新中納言知盛の御子息
みそなは二月七日の合戦に
てうちまいらせ給ひ
けよりあらゆる人の
たる事ども安堵していと時もうせ
まとりあつまり国の人々
ぎょうそう寄り給ひ向ひ給
宵の程より一樹の陰一河の
思ひ他生の縁成べし能く弔ひ給
ひなんと宣ひ作りこの他生の縁の
あまりに社仏の家よりあらく
縁の打養とあるを事うと

のまれ給ひぬるとて　こゝろ毎ひとよ尺
あるごとく一見卒都婆永離三悪
道　何況造立者　必生安楽国　物故平氏知章成等正覚　明日
ある人きゝけれハ我もしらぬ身の上を
知らぬ馬の家人あらバ法よりあつて
仏果にあるりうへや　咀一念のくれ

ざなく三悪の罪ハ消ぬべし　まし
て妙なる法の道にほとりの尊
き縁も有りしが　敬ぐへき
梅知盛の御家ハ何とうあらば
給ひてはさぞ　さんぬる知盛はおれば
みえたる釣舟のほどあれし遥るか
沖の御座船よりも追付たるからかなりしは

早梅あましたいかの船よりすくなくいつ
くしまよりてはるかに見えつつ
黒ぐろとうかまるたりしを
二十餘町の海を面とせるとあり
きくとてはるかに馬もぞれ
ごとし船中に百ばかりの人
もとめくしてよりかはらびあつり

世馬亥の別をまつとさばかりて
沖の方に向ひたりまきしをこぐこと
くこぐたりしかとも
はかとしらるる人家とよりうきて書類を心ろ
月二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二
郡島南枝よりの巣をうけ胡馬ぶ風
二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二
つぐくしてこぐ
二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二
舊尺
胡馬ハ北風ニ
二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二
ヒ
ヒるハ西ニ

船の[illegible]を綱よりたぐりてもゆくがや
[illegible]ここにシ上意義ここに上[illegible]
と[illegible]心なるうち[illegible]やもたや者
て須[illegible]いうあるあまりしやよ[illegible]ど
[illegible]縁なるべ[illegible]
有[illegible]やうてきしうそべきべ一回老
ぐらうたのうなのせのやうや
[illegible]紗人[illegible]

[illegible]人[illegible]行[illegible]
[illegible]れてもむあらて無て[illegible]
[illegible]
[illegible]須[illegible]野山[illegible]
[illegible]
田[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]章景色とありたり

[illegible]家の宝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言。我知章盜物之事。主侍二時よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸奥守殿の御船
二十人町の中より
たゝ大臣殿の御船
つゝき出かけ
扶うを給へ
御前ゝ
藏守をうちの
あつけゝ
武
蔵
物
部
絵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

修羅道の苦患まのあたり
修羅道の苦患まのあたり
ぎ
修羅道の苦患まのあたり
ぎ
修羅道の苦患まのあたり
ぎ

ぞうたきつ[illegible]
[illegible]を思いざうたに御傳乃[illegible]
[illegible]者殺やぶきこ[illegible]法きあよ[illegible]
きこ[illegible]きこ[illegible]章ぐ。[illegible]
[illegible]

儀城忠則

加様ニ[illegible]武藏國乃住人国忠
[illegible]忠澄と申[illegible]毎も今
[illegible]西海乃合戦ニ薩ノ守忠則
[illegible]手に[illegible]取給
段龍[illegible]
[illegible]五条乃三位儀城卿と和

歌の御値遇は由ゝ同此短冊を以て後成の御見参をとゝ
ぬ　いつに業門ゝの　朋輩ゝ　思ひ出ぬ忠澄がこまりたるよう
門ゝ人　朋輩ゝ　ゆかぬ　ゆかぬ　ゆかぬ
ゆくゝ　朋輩ゝ　思ひ出ぬ忠澄の
公申りまて　後成　山方ゝとゝ

やとなれば兵部卿の宮の
給はらんとすれば東武士は
まゐりまゐりまゐりよりはやう馬
の首をねじぶせてうちすてて
置給ひぬ気さいよ行て猿宿の兒
を云聞せうと武士ひげを
ねじまぶやと青ぬ目をあらい

痛りや忠則の
をゐ義礼智信五乃道もたぐ
きらく奇道者ゆえ矢よ
ぬあぎらへ成武二道乃忠則の
舟もそらく祝殿の屋よりかけた
和やくとど羽毒。思ひ
うむざんメの雲にちりもやへ重の塩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後

あらば

[illegible]

後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月二十八日の夜、北野の社に詠ませ給ひける
歌ども、やがて社の奇へ、ぬぎ
枝をりいめり。小倉百人天照太神
の御こゝろ、ことのはの
一字よりぬ。求めまし。
歌ども、
なまらに、大宮作り、

上ニテ、人麿世よりあくなりて。[illegible]
[illegible]。[illegible]費[illegible]躰もかくこう
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]